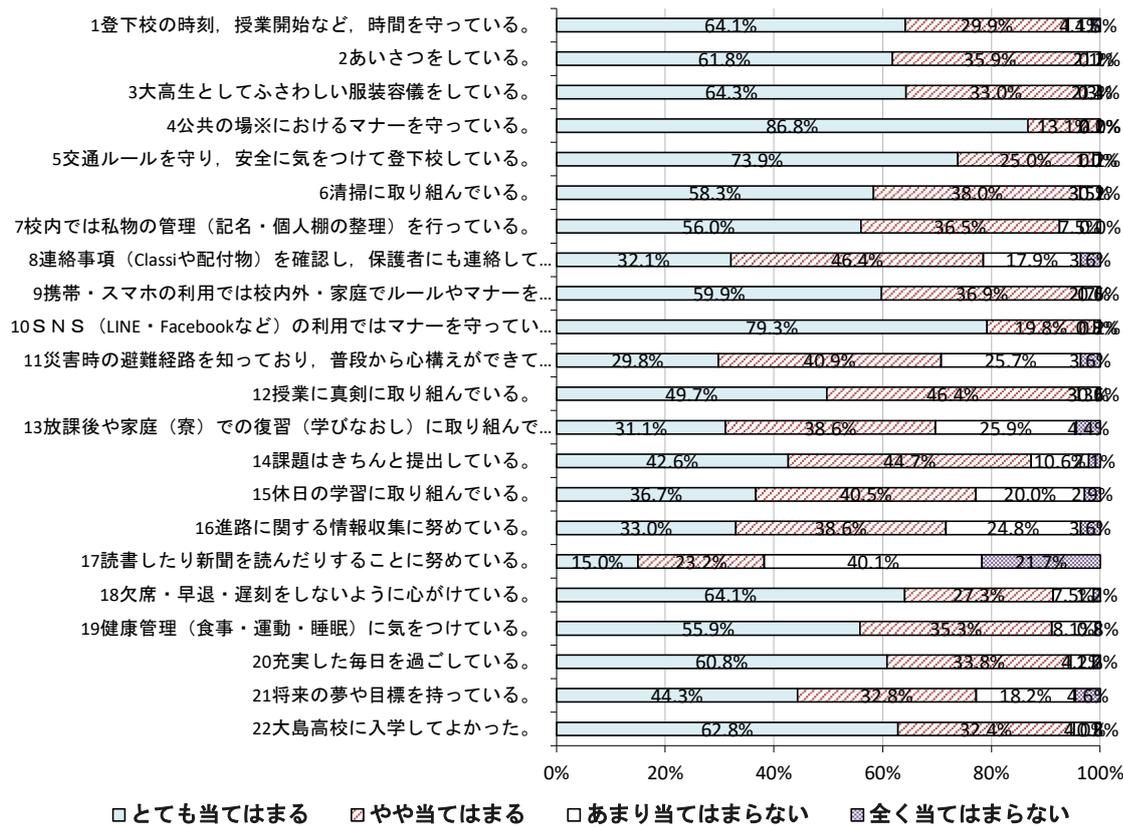


令和7年度 最終 学校生活に関する自己評価(生徒用)集計結果 全学年



※ 「とても当てはまる+やや当てはまる」で前回(令和7年7月実施分)と比較

1 令和6年度から追加した項目 22 大島高校に入学してよかった。93.4%→95.2%に上昇

2 評価の高かった項目

第1位→ 4 公共の場におけるマナーを守っている。99.9%

第2位→ 10 SNS(LINE・Facebookなど)の利用ではマナーを守っている。99.1%

第3位→ 5 交通ルールを守り、安全に気をつけて登下校している。98.9%

3 評価の低かった項目

第1位→ 17 読書したり新聞を読んだりすることに努めている。38.2%

第2位→ 13 放課後や家庭(寮)での復習に取り組んでいる。69.7%

第3位→ 11 災害時の避難経路を知っており、普段から心構えができています。70.7%

4 前回から上昇した項目

第1位→ 11 災害時の避難経路を知っており、普段から心構えができています。(＋4.9%、70.7%)

第2位→ 8 連絡事項(Classyや配付物)を確認し、保護者にも連絡している。(＋3.6%、78.5%)

第3位→ 2 あいさつをしている。(＋1.5%、97.7%)

5 前回から下降した項目

第1位→ 1 登下校の時刻、授業開始など、時間を守っている。(－3.6%、94.0%)

第2位→ 18 欠席・早退・遅刻をしないように心がけている。(－3.5%、91.4%)

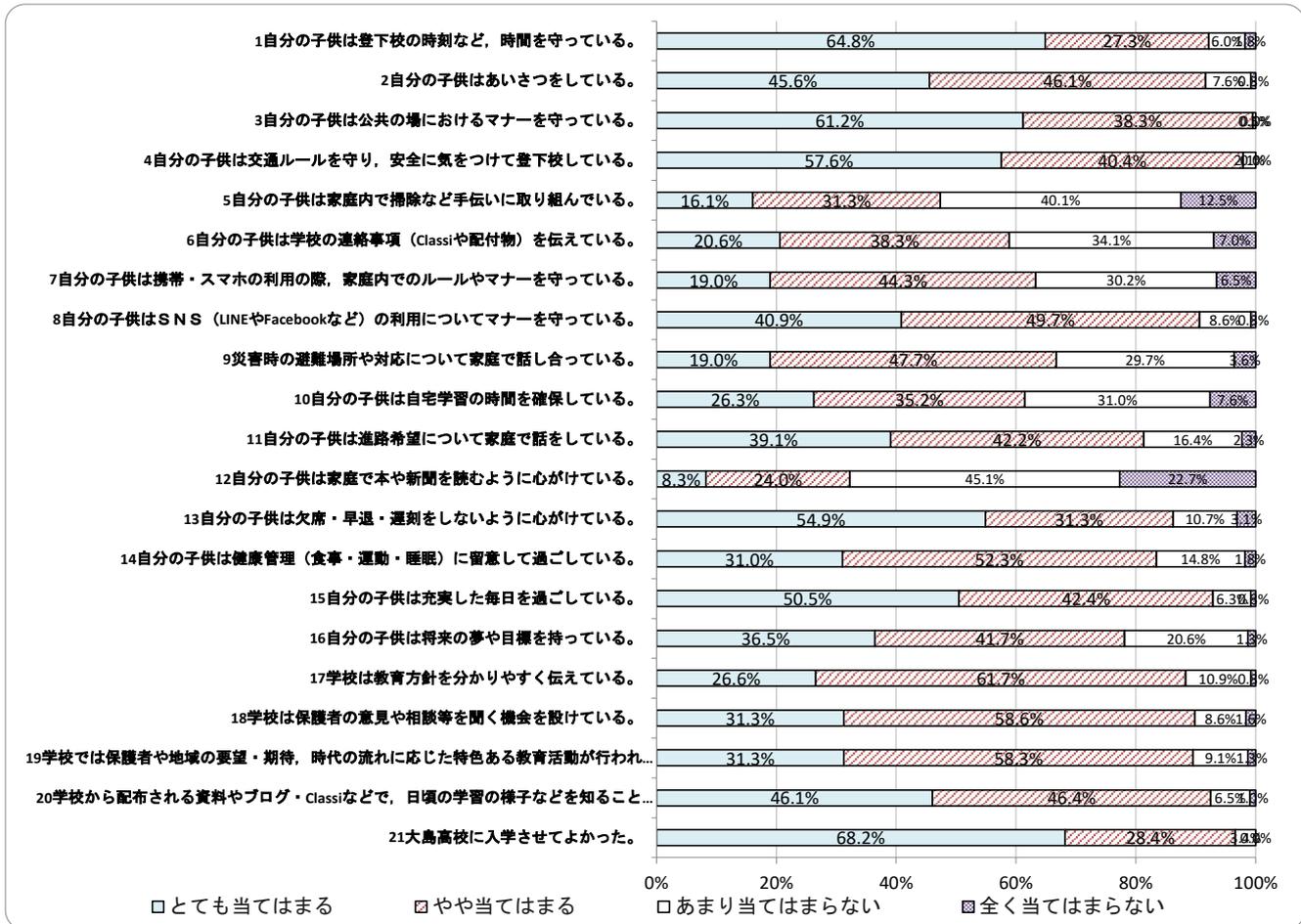
第3位→ 17 読書したり新聞を読んだりすることに努めている。(－3.4%、38.2%)

6 調査期間 令和7年12月10日～12月24日

7 総括

令和6年7月から追加した「22 大島高校に入学してよかった。」が前回よりも1.8%上昇した。評価の高かった項目、評価の低かった項目の第1位～第3位は全く同じであった。前回から上昇した項目の第3位に「2 あいさつをしている。」が新たに入り、日ごろから挨拶をすることを心掛けている生徒が多くなっていることがうかがえる。しかし、前回から下降した項目第3位の「17 読書したり新聞を読んだりすることに努めている。」が全項目で飛び抜けて低いので、朝読書等の取り組みは今後も継続する必要があると見られる。

令和7年度 最終 学校生活に関する自己評価・学校評価(保護者用)集計結果全学年



※ 「とても当てはまる+やや当てはまる」で前回(令和7年7月実地分)と比較

1 令和6年度から追加した項目→ 21大島高校に入学させてよかった。98.6%→96.6%

2 評価の高かった項目

第1位→ 3 自分の子供は公共の場におけるマナーを守っている。99.5%

第2位→ 4 自分の子供は交通ルールを守り、安全に気をつけて登下校している。98%

第3位→ 21 大島高校に入学させてよかった。96.6%

3 評価の低かった項目

第1位→ 12 自分の子供は家庭で本や新聞を読むように心がけている。32.3%

第2位→ 5 自分の子供は家庭内で掃除など手伝いに取り組んでいる。47.4%

第3位→ 6 自分の子供は学校の連絡事項(Classiや配付物)を伝えている。58.9%

4 前回から上昇した項目

第1位→ 11 自分の子供は進路希望について家庭で話をしている。(+8.5%, 72.8%)

第2位→ 16 自分の子供は将来の夢や目標を持っている。(+3.8%, 74.4%)

第3位→ 9 災害時の避難場所や対応について家庭で話し合っている。(+2.7%, 64.0%)

5 前回から下降した項目

第1位→ 6 自分の子供は学校の連絡事項(Classiや配付物)を伝えている。(-9%, 67.9%)

第2位→ 5 自分の子供は家庭内で掃除など手伝いに取り組んでいる。(-6.1%, 38.4%)

第3位→ 9 災害時の避難場所や対応について家庭で話し合っている。(-5.7%, 64.0%)

6 調査期間 令和7年12月10日~12月24日

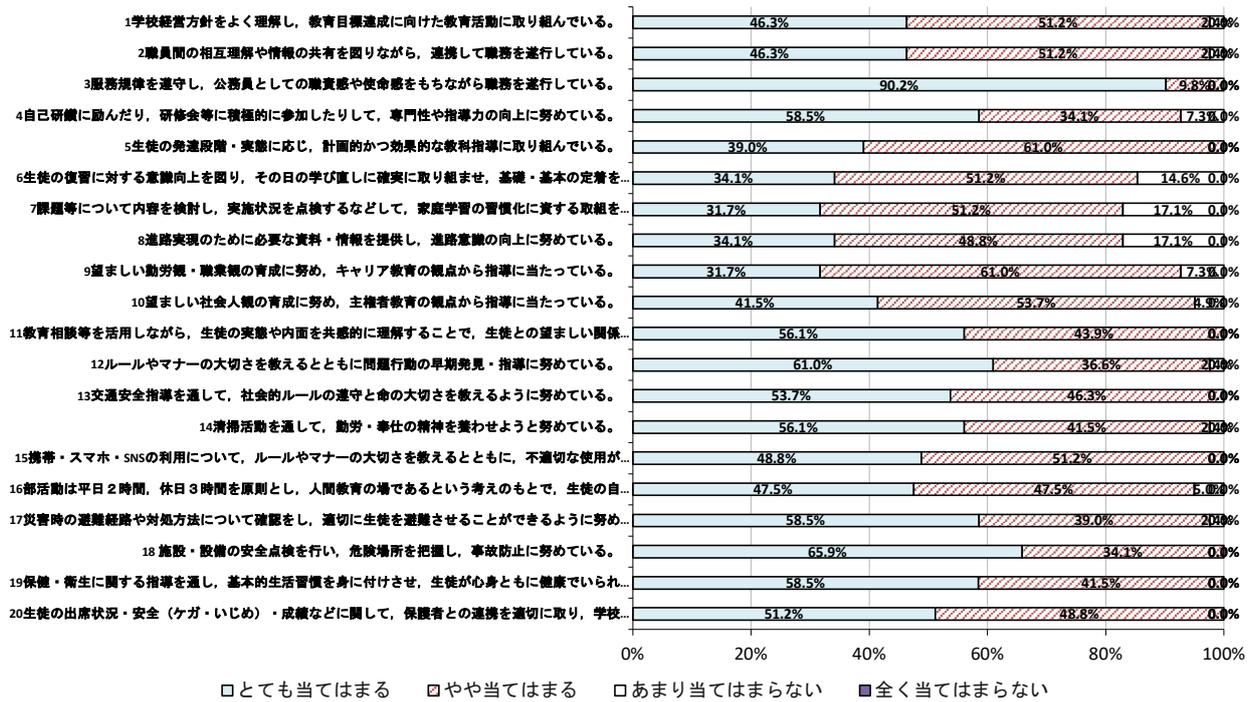
7 総括

令和6年7月から追加した「21 大島高校に入学させてよかった。」は前回より2.0%低下した。

評価の高かった項目は前回と全く同じであった。評価の低かった項目は生徒用と同様に「12 自分の子供は家庭で本や新聞を読むように心がけている。」が圧倒的に低いが、前回からは1.5%上昇した。

前回よりも上昇した項目「11 自分の子供は進路希望について家庭で話をしている。」が第1位であり、7月よりも生徒が保護者と進路について話をしている様子がかがえる。前回から下降した項目は「6 自分の子供は学校の連絡事項(Classiや配付物)を伝えている。」が第1位であり、生徒から保護者への配布物が届いていない状況があるようだ。今後も保護者へ直接知らせる手段の継続の必要性がありそうである。

令和7年度 職員自己評価(最終)集計結果



※ 「ともて当てはまる+やや当てはまる」で前回(令和7年7月実施分)と比較

1 評価の高かった項目

- 第1位 → 3 服務規律を遵守し、公務員としての職責感や使命感をもちながら職務を遂行している。100%
- 5 生徒の発達段階・実態に応じ、計画的かつ効果的な教科指導に取り組んでいる。100%
- 11 教育相談等を活用しながら、生徒の実態や内面を共感的に理解することで、生徒との望ましい関係を築いている。100%
- 13 交通安全指導を通して、社会的ルールの遵守と命の大切さを教えるように努めている。100%
- 15 携帯・スマホ・SNSの利用について、ルールやマナーの大切さを教えるとともに、不適切な使用がないように指導をしている。100%
- 18 施設・設備の安全点検を行い、危険場所を把握し、事故防止に努めている。100%
- 19 保健・衛生に関する指導を通し、基本的習慣を身に付けさせ、生徒が心身ともに健康でいられるよう指導している。100%
- 20 生徒の出席状況・安全・成績などに関して、保護者との連携を適切にとり、学校と家庭の脅威力体制づくりに努めている。100%

2 評価の低かった項目

- 第1位 → 7 課題等について内容を検討し、実施状況を点検するなどして、家庭学習の習慣化に資する取組を行っている。82.9%
- 8 進路実現のために必要な資料・情報を提供し、進路意識の向上に努めている。82.9%
- 第3位 → 6 生徒の復習に対する意識向上を図り、その日の学び直しに確実に取り組ませ、基礎・基本の定着を図っている。85.3%

3 前回から上昇した項目

- 第1位 → 15 携帯・スマホ・SNSの利用について、ルールやマナーの大切さを教えるとともに、不適切な使用がないように指導をしている。(+13%100%)
- 第2位 → 11 教育相談等を活用しながら、生徒の実態や内面を共感的に理解することで、生徒との望ましい関係を築いている。(+8.7%,100%)
- 第3位 → 17 災害時の避難経路や対処方法について確認をし、適切に生徒を避難させることができるように努めている。(+6.2%,97.5%)

4 前回から下降した項目

- 第1位 → 8 進路実現のために必要な資料・情報を提供し、進路意識の向上に努めている。(-8.4%,82.9%)
- 第2位 → 1 学校経営方針をよく理解し、教育目標達成に向けた教育活動に取り組んでいる。(-2.5%, 97.5%)
- 第3位 → 12 ルールやマナーの大切さを教えるとともに問題行動の早期発見・指導に努めている。(-2.4%,97.6%)

5 調査期間 令和7年12月10日~12月24日

令和 7 年度第 2 回学校関係者評価委員会報告

2 月 18 日 (水) 15:40~16:40 (課題研究室)

【参加者】 (敬称略)

【委員】

中 熊 一 仁 (名瀬中学校長) 日 高 達 明 (安陵会副会長)
 寺 師 敬 子 (奄美看護福祉専門学校副校長) 叶 幸 治 (大島高校 P T A 副会長)
 ※村岡 和志 (奄美市教育委員会学校教育課長) は欠席

【学 校】

校長, 教頭, 事務長, 教務部主任, 生徒支援部主任, 進路支援部主任, 保健部主任
 1 学年主任, 2 学年主任, 3 学年主任

【会順】

- 1 校長あいさつ 2 第 2 回学校評価アンケートについての結果分析 (教頭)
- 3 今年度の目標に対する取組と次年度に向けた改善点等についての報告
 ・各部から (各部主任) ・各学年から (各学年主任)
- 4 質疑応答・意見交換 5 評価委員による評価 6 閉会のことば

【各委員よりの質問や意見】

- 1 デジタル化が進む中での生徒の学力変容 (特に書く力と語彙力の低下)
- 2 SNS を介したトラブルの複雑化と指導事例等
- 3 増加傾向にある不登校生徒への対応

1 について

国語科の視点から, 漢字を書く力は「かなり落ちている」と分析されている。これは国公立大学の入試問題においても, ごく基本的な漢字の書き取り問題が出題されるほど深刻な課題となっている。

キーボード入力 (タイピング) が主流となった影響で, 手書きのスピードが遅くなっている。また, 「書きながら考える」という作業に慣れておらず, 小論文などの作成に支障が出ている。しかし, 考える力そのものが大きく低下しているとは考えられていない。授業では「深く読む」「生徒の考えを引き出す」ことに注力している。

2 について

SNS に関するトラブルは, 生徒支援面での大きな懸念事項となっており, トラブルの複雑化による対応の難しさがある。トラブルの多くは学校外・ネット上で発生しており, 教員が把握することが非常に困難である。生徒の携帯電話を強制的に確認することはできない時代であり, 本人の規範意識や保護者の見守り等に委ねざるを得ない。しかし, 不適切な画像の拡散など, 緊急性が高い事案については速やかに警察へ相談するよう助言をしている。また, 令和 8 年度は, 外部の専門家を招き情報リテラシーや SNS の安全な利用方法について講演していただく予定。

3 について

2 月末時点での欠席 30 日超の生徒は約 40 名。特定の傾向はなく, 理由は多岐にわたる。1 学期は登校できても, 2 学期, 3 学期と継続できないケースが見られる。

支援の仕組み

- (1) **別室登校**: 教員を時間割に組み込み, 常時対応可能な体制を構築。別室での学習成果も評価に反映できるよう努めている。
- (2) **進級規定の適用**: 診断書がある生徒に対しては, 出席日数や履修単位の規定を柔軟に適用し, 可能な範囲で進級に対する配慮を行う。
- (3) **早期連携**: 担任を中心に, 本人・保護者と個別相談を継続している。また, 情報を共有しチームで支援を行っている。

その他

- ・直近の入試倍率は **1.04 倍**であった。数年ぶりに定員確保ができてきている状況。
- ・寮の修繕等は予算要求して随時進めている。シャワーの給湯器の修理を含め, 施設の不具合箇所の修繕は完了している。
- ・同窓会において, 今後とも後輩たちのために支援を継続していきたい。